



ALTA併用療法の名称記載について

斎藤 徹

ALTA併用療法の名称記載に関する委員会

2005年3月からALTA療法（四段階注射法）が施行されるようになりました。施行初期の段階からALTA療法の併用療法が報告されるようになり、その後に種々の併用療法が行われ、各自がその名称を命名して、混乱を招くようになりました。そこで、2019年12月15日に内痔核治療法研究会の常任世話人、世話人の有志がALTA療法の名称記載に関する委員会に集い、わかり易い記載を目指して討論が行われました。各自の意見が異なり、皆が満足する結論を得ることは出来ませんでした。しかし、将来に見直しは必要であるが、一応、現時点ではこの記載法で良いのではという結論を得ましたので報告致します。

治療法の部位が異なる併用療法（図1）：図の如く右前方と左前方の内痔核にALTA療法を行い、後方の痔核にLE（Ligation & Excision）を施行した際はLE+Aと記載する。

同一部位の内痔核と外痔核の治療法が異なる併用療法（図2）：図の如く右前方、及び後方において内痔核にALTA療法を行い、外痔核を切除した（E：Excision）際は、外痔核切除（E）が先行であれば、E・A（イー ドット エー）と記載し、ALTA療法が先行であればA・E（エー ドット イー）と記載する。なお、「・」はドットよりも中丸や黒点と発声されることが多いのですが、イーやエーはカタカナ表示なので、ドットと発声することになりました。

外痔核切除（E：Excision）の分類（図3）：切除が肛門縁より外の場合をE1、切除が歯状線に及ばないものをE2、切除・剥離が歯状線を越えるもの（歯状線までを含む）をE3と記載する。

例としてA・E2、E1・Aなど。

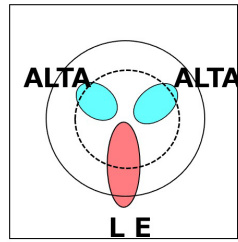
Anal cushion lifting（ACL）との併用（図4）：ACLが先行するとACL・A（エーシーエル ドット エー）、ALTA療法が先行するとA・ACLと記載する。

分離結紮術（DL：Divided Ligation）との併用（図4）：行為が分割なので、分離よりも分割結紮と呼ぶ方が好ましいという注釈が付けられ、DLはLと表記するとされました。

分離（分割）結紮が先行するとL・A（エル ドット エー）、ALTA療法が先行するとA・Lと記載する。



1. 治療法の部位が異なる併用療法

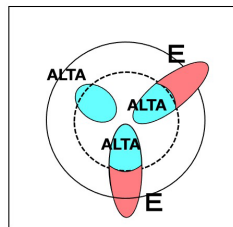


LE + A
読み方：Lイー プラス イー

結紮切除術：LE (Ligation & Excision)
ALTA療法：A

図 1

2. 同一部位の内痔核と外痔核の治療法が異なる併用療法



1) 外痔核切除 (E) 先行

E · A
読み方：イー ドット イー

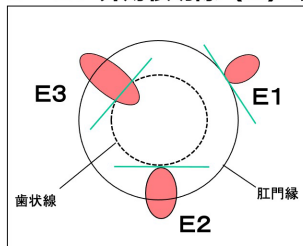
2) ALTA療法 (A) 先行

A · E
読み方：イー ドット イー

切除術：E (Excision)
ALTA療法：A

図 2

2-2. 外痔核切除 (E) の分類



E1：切除が肛門縁より外
E2：切除が歯状線に及ばないもの
E3：切除・剥離が歯状線を越えるもの
(歯状線までを含む)

外痔核切除：E (Excision)

図 3

3. Anal cushion lifting (ACL) との併用

ACL · A または A · ACL
読み方：イー シー Lドット イー イー ドット イー シー L
ALTA療法：A

4. 分離結紮術 (DL) との併用

(行為が分割なので分割結紮と呼ぶ方が好ましい)
DL (Divided Ligation) → L とする

L · A または A · L
読み方：Lドット イー イー ドット L
ALTA療法：A

図 4